

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会 長 藤井 信
 新潟県山岳協会
 長岡市学校町3-11-7
 TEL 0258-32-4835

事務局 諏訪恵一
 長岡市高畑町610-10
 TEL 0258-35-4373

編 集 新山協ニュース編集
 委員会代表 横山征平
 岩船郡関川村下関1100-1
 T/F 0254-64-0469

中国青海ガンシカ峰遠征

新新潟県山岳協会 青海省登山協会

兄弟締結十周年記念

新潟県山岳協会では、中国 青海省登山協会と兄弟締結十周年にあたることから、これを記念し、十月五日～十六日まで中国青海省に赴き、記念祝賀会と西寧市の北方にある祁連(チーレン)山脈東部の、ガンシカ峰5,254・5m(未踏峰)に登山した。

一行は新山協から公募した藤井 信会長／総隊長・橋本 正巳副会長／隊長・片桐一夫 総務委員長／登攀隊長ら十六名で、年齢的には精鋭とはいわれないが中国に精通していたり、登山経験の豊富な面々であった。

十周年記念祝賀会も青海省登山協会の全面的な協力で十周年記念祝賀会に相応しい盛大なものであった。

中国に滞在期間中好天に恵まれ、晩秋の黄土を満喫した。

未踏峰のガンシカ峰登山はBC、C1、C2、アタックと進む予定であったが、C1を飛ばしC2まで到達するほど順調に進んだ。しかし、ここで天候が急変し氷河に新雪が積もり危険な状況となった。このため、一旦BCまで撤退せざるをえなくなり、ガンシカ峰を断念し、すぐ隣接する無名の未踏峰(4,830m)に挑戦し、無事登頂をはたした。

BCの設営には青海省登山協会の皆さんや、BCへの資材搬入には、麓の遊牧民の末えいの皆様方の絶大なご支援を得た。

機会を見て再び挑戦したい山であり、風景がある。

(注)新山協では、今回の山行報告書の発行を予定している。

文 横山征平



ガンシカ峰5,254・5m (BC 4,065mから)

登山計画書を出しましょう

三條工業高校山岳部

インターハイ堂々三位の快挙

新潟県高体連登山専門部

委員長 新保雅稔

去る8月、茨城県各地を会場に第45回全国高等学校総合

体育大会(インターハイ)が

「競え友よ 熱き力を 茨城

で」のスローガンのもと開催

された。このうち登山大会は

茨城県北部の天子町、水府村、

里美村の力強いバックアップ

を受け、男体山(654m)、

竜神峽、三鈿室山(871m)

を会場に競技が行われた。新

潟県からは三条工業高校(団

体男子)、六日町高校(団体

女子)、六日町高校(種目男

子縦走)の強豪3校が県大会

を勝ち抜いて出場した。

全国各地より大会関係者だ

けで優に1,000名を超える

人数が天子町に集結した。

監督リーダー会議や開会式な

ど、地元3地区の盛大な歓迎

を受けながらセレモニーが続

く。勇壮な「里美太鼓」など

も披露された。地元の高校生

も一人一役運動により様々な

部署で活躍しており、まさに

高校スポーツの祭典という健

やかさと爽やかさが感じられ

た。

さて、今大会の特徴と言え

ば、竜神峽がルートとして取

り上げられたことであろう。

渓谷の遡行は、尾根歩きより

ワンランク上の技術と経験が

要求されるものである。果た

して高校総体のコースとして

適するのだろうか、運営側で

は熱の入った議論があったよ

うだ。また、連日35℃を超え

る猛暑もこの大会では大きな

意味を持つことになった。

真夏のこの時期に、メイ

ンクを背負って標高600

〜800m程度の山域を縦走

する過酷さを想像してもらい

たい。おまけに三鈿室山コー

スは林道や車道を含め約25km

のロングコース。さらに追い

討ちをかけるように襲いかか

る午後の雷雨。雷が多いとき

れる茨城県の本領発揮である。

このため水量の少ない竜神峽

コースの渓谷も、通常より水

量が多く条件が悪かった。幕

営地の標高も低く、疲れ果て

て幕営地に到着しても、夜は

猛暑、雷鳴、ヤブ蚊との戦い

である。身体も心も休まる暇

のない大会であったと思う。

まずは全国から参加した選手

諸君に賞賛を送りたい。

このような条件下で、上位

入賞を果たすためには単に体

力増強や歩行技術の熟達だけ

に力を注いでも、他チームと

の差はそう出るものではなく、

様々な工夫が必要となる。装

備をいかに軽量化するかとい

うこともその一つ。ただし食

糧品については栄養価を落と

さないよう軽量化を図らなけ

ればならず容易ではない。竜

神峽での沢登り対策としては、

足回りをどう考えるかが問題

となる。溪流靴なども一案で

あるが、デボが許されないこ

の大会ではその文荷物が増加

することになる。山中行動3

泊4日をどのように攻略する

か、そのルートと日程をトー

タルで考えないと装備類は増

えるばかりである。また、暑

さ対策として衣類の繊維素材

やその組み合わせを研究する

などの工夫も必要だ。メーカー

からは各種の衣類が販売され

ているが、その性能や着心地

はカタログスペックのみで掌

握できるものではなくフィー

ルドテストを重ねることで初

めて答えが出るものだ。

登山は経験がものを言う世

界であるとされる。それほど

山行日数の多くない高校生が

これら困難な条件を乗り越え

て立派に行動できる背景には、

山岳部の先輩達から受け継が

れてきたノウハウの蓄積と研

究熱心な顧問の存在がある。

たとえ小さな山行であっても

決して手を抜かず無駄にしな

い。その態度こそ三条工業高

校山岳部の強みであるといっ

ても過言ではないと思う。お

めでとうございました。



少年女子総合優勝で

よさこい高知国体出場権獲得

7月27日、28日の両日、福井県福井市を会場に第23回北信越国民体育大会山岳競技が開催され、北信越五県の各選手を勝ち抜いた選手達が熱戦を繰り広げた。

7月27日、28日の両日、福井県福井市を会場に第23回北信越国民体育大会山岳競技が開催され、北信越五県の各選手を勝ち抜いた選手達が熱戦を繰り広げた。

その競技の力配分を試す場ともなった。初日のクライミングは、35度を超す暑さの中、県立クライミングセンターで行われ、

7月27日、28日の両日、福井県福井市を会場に第23回北信越国民体育大会山岳競技が開催され、北信越五県の各選手を勝ち抜いた選手達が熱戦を繰り広げた。

また、少年男女は今回からクライミングが正式種目となったこともあり、各県ともそれぞれ

初日のクライミングは、35度を超す暑さの中、県立クライミングセンターで行われ、

結果は、少年女子が初日のクライミングに続いて縦走でも丸山彩子、水野美咲両選手

の活躍で種目1位となり、総合優勝を果たして、本大会である「よさこい高知国体」への出場権を手にした。

練習期間3ヶ月ながら日ごの成果をフルに発揮し1位を獲得。また、成年男子は3位、少年男子は4位に終わった。

総合2位、少年男子は縦走2位、総合3位で惜しくも本大会への出場権を逃した。

二日目の縦走競技は一乗谷山系を会場に行われ、スタート地点となった一乗小学校を出発し、車道を走り、街を抜け、林道を駆け上がる高度差約500m、距離約8kmのコースに挑戦した。

縦走2位、総合3位の成績を収めた。

成年男子、少年女子チームの「よさこい高知国体」での活躍を大いに期待します。

【新潟県選手団】

○成年女子

監督…阿部信一

CL…春日未奈・須藤吉仕子

縦走…須藤吉仕子・暖 温子

○少年男子

監督…水落竜馬

CL…山田真史・柳 和宏

縦走…柳 和宏・樋口大棋

○少年女子

監督…竹内 茂

CL…水野美咲・小林美久

縦走…丸山彩子・水野美咲

○成年男子(オーブン参加)

監督…古澤勝美

CL…春日俊信・片桐健太

縦走…若井栄一・片桐健太



守門岳(袴岳)の頂上に憩う登山者

山と岩石

さわがに山岳会 小野 健

⑬ 越後山脈・鳥海火山帯の山

同じ山域でも、地質的に全く生い立ちを異にしている山も多い。越後山脈の県境に並ぶ御神楽岳と浅草岳は、堆積系と火山系に分けられる。また、浅草岳と守門岳は、同一火山帯に属する兄弟の山でもある。

御神楽岳から八十里越辺りまでは、矢筈岳光明山と同系の中新世の火砕岩・堆積岩を基盤とし、一部に珪質流紋岩が介在して岩稜となり、登山道の危険箇所になっているところもある。八十里越から浅草岳にかけては、中古生界と中新世のグリーンタフ層を基盤として、山頂部を更新世以前に活動した火山岩が覆っている。浅草岳山頂北斜面には、草原帯もみられるが、福島県側は安山岩溶岩の急崖が連続している。

鳥海火山帯南端には、御神楽岳と共に二百名山に指定されている守門岳がある。浅草岳と同じ基盤に立つ、安山岩・玄武岩のコニーデ型成層火山で、平野部からもその秀麗な山容を望むことができる。

北股川遡行体験

峡彩山岳会

榎井利幸

九月の晴れ間を選んで、念願の北股川（飯豊川支流）を遡行した。私にはもうチャンスは訪れないと思っていたのだが、パートナーは同行してもいいと言う。今、行かないと本当に行けないだろう。こは無理に休みをとってでも実行しようと思った。

秋の穏やかな陽だまりの中をジャブジャブと歩けば、赤とんぼが岩の上で力尽きていたり、もう紅葉の始まった樹木があつて、移りゆく季節が感じられる。

やがて様相は一変し、深いゴルジュの底に滝と淵の連なる「これぞ飯豊の川」といったところだ。美しさと凄みに圧倒されそう。夏にくらべ水量は少なく、不安定な雪渓は崩壊してはいるものの、水の冷たさにごまかすまで耐えて、遡行意欲を維持できるかが問われる。

一日目は想定していたよりも先へ進むことができたが、下部核心部のゴルジュの中の泳ぎが続くと、身体がガタガタと震え出して止まらない。このまま低体温症になつてどうにかなつてしまふのではなにかと思う程だった。ルンゼを這い上がったところの斜面を今日の泊り場とする。

二日目は通称・彦兵衛前滝（これが彦兵衛滝だという人もいる）の高捲きに約四時間を要した。ロープの多用も時間をとつた原因であるが、握力が低下してきた私には仕方なかった。ヤブの中でも急峻なところでスリッパした場合、握力が効かなくなつたら止める術がないのだ。やつの事で細尾根に出て息を飲んだ。目の前には地蔵カルと言われる二〇〇メートルの岩壁が聳え立つ。なんとからまく沢に降りてその壁の対岸の砂地で泊

まることとした。この沢ではここだけと言える平坦地だ。乾いた流木はすぐに燃え上がり、酒を酌み交わせば消耗しきつた体にすぐに染みわたる。そして来て良かった……としみじみ思うのだ。

三日目。夕べはとても気持ちよく眠れた。今日も頑張ろう。ガレ場を暫く行くと、ゴルジュの奥にチムニー滝が立ち塞がっている。「またか」。左岸のルンゼからの捲きを終え懸垂支点を得ようとするとなんと足元に古いスリングが残されていた。久しぶりの人工物になつたかしい気持ちになる。三ピッチの懸垂下降で沢床に降り立つと、目安としていた鮎倉沢は目と鼻の先であった。

日程の関係で最後まで本流を詰める事はできなかったが、自分の課題を見つけ、また自信を持って良いところが明らかになつた山行となつた。やり残した鮎倉沢より上部をどうするか？まだ決めていない。

・日程 二〇〇二年
九月一日～九月二日
・メンバー
本間文雄(43)
榎井利幸(48)

編集こうき

▲ 今秋は十月半ばからの長雨がたり、ゆっくり紅葉を眺めての山行もできないうちに初雪が近くまでやつてきました。皆様にはお変わりございませんでしょうか。

▲ 新山協ニュースもこのところ無沙汰しており、記事も掲載時期を逸したり、新鮮さに欠けたりご迷惑をお掛けしておりますが、漸く復活の兆しが見えてきました。

各山岳会の活躍情報など身近な情報もお聞かせください。

▲ 北越後にも高速道が中条町まで開通し、新潟県下の山も日帰りで広範囲に行動できるようになりました。大変結構なことですが、その分多少無理をしても県外まで足を伸ばす方も多いかと思いますが、運転にはくれぐれもご注意ください。(征)



登山・アウトドアの専門店

ICI 石井スポーツ
新潟駅前店

新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025) 243-6330(代)

登山・ハイキング・クライミング テレマーク&山スキー



パーマーク
長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)
TEL.0258(37)1200-FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>